

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	運営推進会議や地域の方へも便りを配布したりして広報範囲を広げていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	散歩の時にゴミ拾いを行い地域の美化に協力したり、地域の一員として貢献できる取り組みを行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症介護実践者研修や看護学生・高校生の実習生の受け入れを積極的に行っている。代表者は認知症グループホーム協会県支部で年間研修会立案や研修会実施に直接携わっている。また、地域の社協、民生委員の会で研修会、老人会の集まりで勉強会などを開催している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果をもとに改善に向けての具体案の検討や実践につなげるため取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、現在ホームが取り組んでいる内容について報告し、アドバイスや質の向上のため双方向的な意見交換を行っている。また、前回の会議で取り上げられた検討事項やアドバイスについて、その経過を報告し、一つひとつ実績を積み上げていくようにしている。	○	利用者である認知症高齢者の取り組み事例の提示や、ご意見を活かした取り組みを行い、その報告をおこなったりしている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員は月2回の頻度で訪問しており、利用者との談話や相談、ケアの現場の見学を行っている。年に2回鳴門市介護保険課職員を含めた介護相談員報告会が開かれ、ホームの優れた点や改善してほしい点などのご意見をいただき、さらなるサービス向上に向けて取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	機会ある毎に、書籍やリーフレットなど、関連資料を読み理解を深めるよう努めている。また、研修会への参加などを行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法を読んだり、法人内の勉強会に参加したりして、理解浸透や遵守にむけた取り組みを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をとって丁寧に説明し、利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取り、医療連携体制の実際や退居も含めた事業所の対応可能な範囲などについて詳しく説明し同意を得るようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を月2回受け入れ、利用者が気兼ねなく意見を表せる機会を作っている。また、利用者の言葉や表情・態度からその思いを察するよう努め、介護記録に残しケアに活かすようにしている。 <b>介護相談員報告会では鳴門市職員も参加され、さらなる質の向上に取り組んでいる。</b>	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個別に毎月の健康状態や事業所での暮らしぶりやエピソードを写真を添えてお便りしている。また、ご家族の来訪時には声をかけ、利用者の状況などについて話し合うようにしている。	○ 健康状態や医療面の詳しい内容を書面で毎月お伝えできるようにしていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には訪問時や家族会などで常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。出された意見や要望へは迅速に対応している。また玄関やリビングにご意見箱を設置し、気軽に意見をいただけるようお願いしている。	○ 今後、家族会では、職員が席を外して家族同士で話し合ってもらう時間をとり、皆さんの意見や苦情などを代表者から伝えてもらうようにしたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回無記名のアンケートを行い職員からの率直な要望や意見を聞く機会を設けている。また、日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、意見や提案を聞き、職員の意見を反映させ質の向上に努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の自由な暮らしをできる限り支えられるよう、入居者のペースに合わせたローテーションと柔軟な職員配置を考えている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特別の事情がない限り、職員の異動を避け、なじみの関係づくりを重視した職員配置を行っている。異動や離職がやむを得ない場合もその時期や引継の面でスムーズに移行できるよう配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回開催している法人内の勉強会で日頃の取り組みを発表したり、他の部署の発表から学びを深めている。また外部の研修会や講演会に参加し、参加できなかった職員へも資料や報告書を閲覧できるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価事業へ参加し、他事業所との相互訪問をし見学や意見交換を行い、事業所以外の同業者の意見や経験を聞く機会を持っている。また、グループホーム協会主催の研修会への参加活動を通じて、同業者との豊富な交流機会がある。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労やストレスの要因について気を配り、休憩室を確保し心身を休めるように配慮している。また、日常や面談時に職員のストレスや悩みを把握するように努めている。また、グループホーム協会主催の「管理者の集い」などに参加し、他事業所との交流を持ちお互いの悩みを話し合いストレスを緩和する機会などを持っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は管理者や職員個々が業務遂行上に充実感を感じられるよう積極的に取り組み、配慮をしている。また、現場に出たり面談を通して職員個々の業務や悩み、努力や成果を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。また、利用者によっては通所で利用してもらい、本人の思いや不安を受け止め信頼関係を築けるよう工夫している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの経緯についてご家族からゆっくり聞くようにし、ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか事前に話し合いをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、ホームとして可能な限り柔軟な対応を行い、必要に応じて地域包括支援センターや他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人、ご家族に見学に来ていただくことから始め、利用者によっては通所で利用してもらい、職員や他の利用者や場の雰囲気に馴染んでいただき、無理なく安心してホームでの生活に移られるよう配慮している。やむを得ず、すぐ利用になった場合は、ご家族やこれまで関わっていた関係者の方に来てもらうなどして安心感を持ってもらうようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いや心の奥底にある苦しみ、不安、喜びなどを知ることにも努め、暮らしの中で分かち合い、共に支え合える関係づくりに留意している。また、利用者の得意分野で力を発揮してもらいお互い様という気持ちや感謝するという関係性を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、ご家族の思いに寄り添いながら本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の日頃の状態をこまめに報告・相談するとともに、ご家族からの思いを日常的にご本人にお話し両者の思いが結びつくよう関わっている。また、外出や外泊でご家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事に家族を誘ったりしながら、より良い関係の継続に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	老人会に参加し地域に暮らす馴染みの知人や友人等と継続的な交流ができるよう働きかけたり、昔から利用している美容院に行き続けている利用者などがおり、一人ひとりの生活習慣を尊重している。また、手紙や電話での連絡を取り持つなどつながりを継続する支援をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりをしたり、世話役の人にもうまく力を発揮してもらい、他の利用者の気持ちを引き上げてくれる場面づくりをするなど、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所に移られた方にも、利用者と一緒に遊びに行ったり、事業所の行事に来てもらったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者と対話し観察を行い、言葉や表情などからその真意を推し測ったり、思いや希望を把握するように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時にご本人やご家族、関係者などからプライバシーへの配慮をしながら生活歴や生活習慣など聴き取るようにしている。利用後も折に触れ、ご本人やご家族にどんな生活をしてきたか聴き、また、それを職員で共有し日々の介護に活かすように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、生活・心理面の視点やできないことよりできることに注目し、その人全体の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き反映させるようにしている。また、センター方式を活かしながら利用者が自分らしく暮らせるように職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。カンファレンス時にはご本人やご家族に可能であれば参加していただき意見や要望を聞き介護計画に反映できるように努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果などを評価するとともに、職員が情報を確認し、ご家族や本人の要望を取り入れつつ見直しを行い、状態が変化した際には、期間が終了する前であっても検討見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は、個別のケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。職員は業務開始前に、日々のご本人の食事、水分量、排泄などの身体状況および本人の言葉、エピソード等の記録を確認することを徹底している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人と地域とのさまざまな接点を見出し、近隣の保育園への働きかけを行い、合同行事を企画したりしている。また、消防署員に来ていただき消防の指導を受けたり、運営推進会議での地元民生委員、自治会などの役員の参加など地域の人や場の力を借りた取り組みをしている。	○	さらに周辺施設への働きかけをしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や体調に応じて、訪問美容院サービスを利用してもらったり、ご本人が入居前に通っていた美容院への送迎をしたりしている。また、運営推進会議を通して、同法人以外の地域包括支援センターのケアマネジャーと話し合う機会を持ち情報交換を行ったりしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には、法人内の地域包括支援センターや他地域包括支援センター職員の参加を得ており、情報交換や意見交換を重ねるようになり、協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族の希望に合わせた医療機関に応じている。また、ご家族の都合に合わせた通院介助に努めており、法人内の医師をはじめとして、他の医療機関からのセカンドオピニオンが得られる環境を整えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	理事長である法人内医師は専門的見識が高く、診断や治療など認知症についての指示や助言を得ながら入居者との関わりをもっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同法人の診療所が提携医療機関となっており、看護師とは気軽に相談できる関係ができており、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行ってもらっている。診療所とは内線につながっており、連携も密にとれる体制が確保されている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人への支援方法に関する情報やかかりつけ医からは病状についての情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。また、家族とも情報交換しながら、回復状況等を知り速やかな退院支援に結びつけている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方、事業所の対応について、できるだけ早期から本人、家族、かかりつけ医師を含めケア関係者と話し合いを繰り返し、対応方針の共有を図っている。また、状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援につなげている。	○	利用者の重度化した場合における対応に係る指針を整備し、重度化や終末期に向けた方針の共有に努めている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在までに重度化や終末期の利用者はいなかったが、今後の変化に備え、ご本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合い、安心して終末期を過ごせるよう、機会あるごとにご本人や家族の意思を確認するようにしている。急変した場合は、すぐ対応していただけるよう医療機関とも密に連携を図り対応している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人やご家族の合意を得て、住み替えられた事業者へのこれまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点など情報提供を行い、これまでの暮らしの継続性が守られるよう連携し、ダメージを防ぐように努めている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わり方をリーダーが点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。また、プライバシーの保護の徹底や個人情報の漏えい防止を事業所全体で行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の生活において些細なことでも本人が決める場面を作っており、また、言葉がなくとも入居者個々の思いや意図を汲み取り、ご本人が自分の意志で物事を決められるよう支えている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの状態に配慮しながら、その時の本人の気持ちを尊重し、買物や散歩等できるだけ個別性のある支援を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の生活習慣に合わせ支援をし、行事等日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。本人の馴染みの美容院で、希望にあわせたカットや毛染めをしてもらえるよう、連携をとっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんと一緒に採ってきた畑の野菜などの食材を使ったり、買物と一緒にいき、下ごしらえから盛り付けなど調理を利用者個々の力を活かしながら職員と一緒にしている。また、職員と利用者が同じテーブルを囲んで会話などしながら、楽しい食事時間となるよう雰囲気づくりも大切にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人やご家族から聞いたりして、一人ひとりの嗜好物を職員は理解しており、本人の様子や時間をみながら楽しめるように支援している。飲酒・喫煙習慣のある利用者はいないが、甘酒や漬物、食事時に希望のおかずをお出ししたり、買物に行った際に食べたいものがあつた時には、購入してお出ししたりしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握し、尿意・便意のサインを敏感にとらえ、さりげなく声をかけ誘導を行うことにより、トイレで排泄できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に合わせて入浴できるように毎日準備し、利用者のその日の希望を確認し入っていただいている。入浴を拒む方には、声かけや対応の工夫をしたり、夜間の入浴を行ったりして、個々の習慣に合わせて支援している。また、同性での介助にも配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。個々の体調や表情などを考慮して、休息がとれるようにも支援している。また、夕方から穏やかで安心した時間の過ごし方に取り組み、就寝にむけて気持ちが安定するよう工夫している。寝つけない時には、添い寝をしたり、温かい飲み物を飲みながらおしゃべりする等配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。食事作りや裁縫、畑仕事、掃除、書道や散歩など利用者の習慣や希望などから役割や楽しみを發揮する場面を作っている。また、遠出の外出や地域の行事参加などの楽しみごとを利用者と相談しながら行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望と家族の協力を得て少額のお金を持っている方もいる。家族よりお金を預かり、事業所が管理している人でも、買物時にはお金をお渡しし、自分で払っていただけるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望に添って日常的に、畑仕事、散歩、買物、ドライブなど戸外へでかけている。また、季節を感じていただけるよう、初詣や花見、海を見にいったり季節ごとの外出行事を計画している。また、ご自宅の近くを通ったり、その人の馴染みの場所へ出かけたりしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人が行きたいと思う遠くの場所への外出については、本人の希望をご家族に伝え、協力を得て実家の近くや温泉へ出かけたりされている。また、利用者の希望を踏まえた外出の企画をし、阿波踊り見物、花見、人形浄瑠璃の鑑賞などの外出を支援している。	○	条件がそろえば、一泊旅行に出かけられるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友達への電話の取次ぎの支援を行い、事務所の電話を使用してもらい、他の利用者さんに会話が聞こえないようにし、電話の使用を支援している。また、家族、友人、知人からの手紙や電話を歓迎し、返事の手紙を出せるように支援したり、利用者の希望に応じて日常的に電話をしたり、手紙を出せるように支援している。	○	年賀状や暑中見舞いを出すための支援を行ってきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間などは特に定めておらず、仕事帰りやご家族の都合のいい時間帯に、いつでも訪ねて来ていただけるような配慮をしている。また、ご本人と面会の方が気兼ねなく過ごせるよう居室に案内したり、リビングの一角を使っただけできるよう心がけ、自然な形で歓迎できるよう配慮している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は身体拘束によって利用者が受ける身体的、精神的弊害について、また、介護保険法にある禁止対象となる具体的な行為について十二分に理解しており、拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は玄関の鍵をかけておらず、職員の見守り方法を徹底し、利用者が外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声をかけたり一緒についていく等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。	○	万が一の離設に備え、離設時対応マニュアルを策定し対応できるようにしている。また、運営推進会議等を通し近隣の方にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いていっている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録などの事務作業や業務を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するように努めている。夜間は、1時間ごとに利用者の様子を確認するとともに、起きられた時すぐ対応できるように配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活感のない住環境にならないよう配慮し、不必要に片づけてしまわないように心がけている。利用者の状況に照らしながら、注意が必要な物品は何かを職員で把握し、管理方法を決めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒をはじめ、調理中の切り傷や誤嚥、行方不明など受傷の大小にかかわらず、ひやりハットも含め速やかに事故報告書を作成し、原因と予防策を考え取り組んでいる。また、月ごとの法人全体での事故検討会議にも参加し、各職種により事故防止策を検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	同法人の診療所の医師や看護師の迅速な協力を得られるよう緊急時の連絡体制を確立している。また、緊急対応時のマニュアルを整備し、周知徹底を図っている。同法人の看護師の協力のもと、全ての職員が応急手当に関する方法を体験・習得するようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立ち合いのもと消防避難訓練と避難経路の確認を年1回と消火器の取り扱い訓練を年2回行っている。避難訓練は、別に事業所職員のみでおおむね2ヶ月に1回定期的に行っている。地域の協力体制については、自治会や運営推進会議で協力を呼びかけている。	○	地域の消防団員へ声をかけ、合同の消防避難訓練を計画 中である。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている	様々な役割活動や自由な外出により、リスクが高くなるものの、力の発揮や抑制感のない暮らしが利用者の表情を明るくし、むしろ行動の障害を少なくしていることを家族に見てもらったり、具体的に説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝行う、検温、脈拍、血圧測定をはじめとして、食事量や顔色、様子などを観察し、記録を行い、異常の早期発見に取り組んでいる。変化がみられた時は速やかに医師に報告し、指示を仰ぐようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりが服用する薬の目的、副作用、用法や用量について理解し、確実に服薬できたか確認するようにしている。また、薬の処方などが変更された時には特に注意して確認し、本人の状態変化が見られる時は、医師や看護師へ報告し、連携を図れるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を記録し、排便の有無を確認している。日頃から便秘にならないよう水分補給を行ったり、繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。また、散歩や家事活動など身体を動かす機会を適度に設けている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前には義歯の洗浄を行い、必要に応じて洗浄剤に浸すなど清潔の保持に努めている。また、歯科衛生士の指導のもと歯茎のマッサージなどの歯周病についての口腔ケアを行っている方もいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎食事後チェック表に記入し、職員が情報を共有している。また、法人内の管理栄養士に定期的に、栄養バランスや一人ひとりの状態に合わせた食事内容等の専門的アドバイスをもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策のマニュアルを策定し、予防・対応に努めている。また、職員と同意をいただいた利用者はインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策としてペーパータオルを使用したり、汚物処理に対する訓練や消毒の徹底を行っている。地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日の買い物で調達しており、買い置きは行わないようにしている。また、冷蔵庫や冷凍庫の食材の残りの点検を頻繁に行っている。調理器具・台所水回りの清潔・衛生を保つよう、職員で取り決めて実行している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気の玄関になるように、花を生けたり玄関先にプランターを置いたりして、季節感を演出している。玄関先にはベンチを設置し、自由に憩いの時間がとれるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって不快な音や光が入らないよう共用空間を整え、家庭的な雰囲気を壊さないよう配慮し、居心地の良さや活気ある生活ができるように配慮している。茶碗を洗う音やご飯の炊けるにおい、観葉植物や季節の花を飾り、五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに2、3人がけのソファを置いてあり、気の合う人同士が語り合えるスペースを設けている。玄関先に設置したベンチで外の空気を吸いながらくつろいだり、水槽の前の椅子に座り金魚の成長を眺めたりと思い思いに過ごせる居場所づくりに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れた家具や書道用品などを持ち込まれていたり、思い出のアルバムや湯飲みやカップ、ご本人が作った作品や花を飾ったりしている。据え付けのベッド等は個人の好みに合わせた配置にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気に努め、空気のだよみや臭気がこもらないように、毎朝の掃除の時間に換気を行っている。また消臭剤なども置き、悪臭が漂わないように配慮している。また、リビングには温湿度計を設置し、利用者の様子をみながらこまめに温度・湿度の調節を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所の流しや作業台の高さ、物干しや洗面所の高さが利用者が作業しやすいように整えてあり、廊下、浴室、トイレの手すりも安全確保と自立への配慮の視点で生活環境を整えている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとって何が分かりにくいのか、どうしたら本人の力のできるのかを考え、状況に合わせて環境整備に努めている。新たに混乱や失敗が生じた場合は、その都度職員で話し合い、本人の不安材料をとりのぞき、できるだけ自立して暮らせるよう試みている。表示も馴染みのものを活かした表示にしたりしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭には畑や花壇があり、花を植えたり野菜を育てたり、利用者が日常的に楽しみながら活動できるような環境を作っている。デッキや中庭にはベンチを設置し、利用者がひなたぼっこしたり、思い思いに過ごせるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)